

発議案第1号

義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書について

上記発議案を別紙のとおり、白井市議会会議規則第14条の規定により提出します。

令和3年12月17日提出

白井市議会議長 岩田 典之 様

提出者	白井市議会議員	影山 廣輔
賛成者	白井市議会議員	小田川敦子
	〃	和田健一郎
	〃	徳本 光香
	〃	岡田 繁

提案理由

未来を担う子どもたちの健全育成を目指し、豊かな教育を実現するため。

義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書（案）

義務教育費国庫負担制度は、憲法上の要請として、教育の機会均等とその水準の維持向上をめざして、子どもたちの経済的、地理的な条件や居住地のいかんにかかわらず無償で義務教育を受ける機会を保障し、かつ、一定水準の教育を確保するという国の責務を果たすものである。

政府の主導する三位一体改革の中で、国家財政の悪化から同制度を見直し、その負担を地方に転嫁する意図のもとに、義務教育費国庫負担金の減額や制度そのものの廃止も検討された経緯もある。

地方財政においても厳しさが増している今、同制度の見直しは、義務教育の円滑な推進に大きな影響を及ぼすことは憂慮される。また、同制度が廃止された場合、義務教育の水準に格差が生まれることは必至である。

よって、国においては、21世紀の子どもたちの教育に責任を持つとともに、教育水準の維持向上と地方財政の安定をはかるため、義務教育費国庫負担制度を堅持するよう強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和3年12月17日
千葉県白井市議会

提出先

内閣総理大臣	岸田文雄
財務大臣	鈴木俊一
文部科学大臣	末松信介
総務大臣	金子恭之